九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

中国古典様式家具の日本への受容過程に関する研究

石丸, 進

https://doi.org/10.15017/459015

出版情報：Kyushu University, 2005, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

結語

国より請来した文化の中で，家具は幾多の名称表記や技術そして形態の と変遷を経て今日にいたる，起居と密接な社会文化の産品である。
本家具の成立過程において，中国古典家具が，何らかの形で継続して影 与えてきたことは事実である。それは中国古典家具と共通する要素が名 記や形態そして，生産のための接合技術と用材にみられるからである。
国では紀元 2～3 世紀に，什器や什物から分離して「家具」という表記が しているが，日本では木器や調度の表記を使用している。つまり，調度 配やほどよく配置することを意味し，そのことの中に，建築と一体化し 内構成の手法として捉えられた家具の概念が見受けられ，中国家具との 性がみられる。
国では「建筑是表，家具是里」，つまり家具は建築を充実する具体的な で，表と裏の関係である。そして，それぞれ建築と家具史研究があり， 文化が生活に定着している。中国古典家具は実用性や装飾性といった機 もさることながら，用材と歴史性の蓄積がそれに加わり，国際的な評価 み出している。
本の平安時代にみられる「家具」の表記は，家にそなわっている器物や を表し，中国の木質の床や榻そして几案などとは微妙に異なる表記とい また，江戸時代初期にみられる碗家具の家具表記は，呉語（蘇州方言） や盆などの食器類を表す表記と同じ表記とみられることから，受容した 類似する，食器類を表す漢語の表記展開であると推定される。
本における家具表記は，1875(明治 8)年頃に，中国家具表記と共通する 具」の表記が使用された可能性がある。これは西洋家具の輸入に起因し ファニチャーと類似した概念の漢語表記を使用したと推定される。
が国では，古代から建築と室内は表裏一体で，内部空間における調度の 性の確立は，西洋家具が輸入され，その影響により成立したと考えられ それは，日本には近世まで建築と分離したインテリア空間はなく，その 要素である家具には，近代まで家具や生活様式という視点がみられなか

具や調度の生産技術である接合技術は，中国と共通する技術的要素が多 共通する接合表記は，接合に見られるだけである。榫と枘は表記として されたにもかかわらず，枘だけが使用されている。特に，交椅の椅圏に

れている「楔丁榫」は，見せるための接合であり，日本の木造建築に見る略鎌や金輪継ぎに共通する接合といえるが，日本の曲彖には見られなりか，接合技術が簡素化され，接合を飾りで隠している。このように，共通しており受容がみられ，接合表記には独自の展開が見られる。

の要因は家具用材に起因し，用材と材質の違いによる考えられる。奈良大陸文化が直輸入された時期であったが，日本には木材が豊富で良質のがあったため，中国の建築様式などの導入が完全に行われたにもかかず，請来品以外の，生活に関する木器類や調度用材には，国産材が使用と考えられる。その中で，家具用材としてのケヤキは，奈良時代では院の木器に，中世では室内構成要素の書院の棚などに使用がみられるよるが，これは中国の紫檀や花梨用材利用の影響と日本の木工具と加工の発達により，製作が可能になったものと思われる。

かし，禅宗寺院などの仏具や調度には，中国古典様式家具と用材そのも請来され導入されたが，和製用材は中国の欅木と類似した国産材を使用など，和製化したようである。

国の床（牀）や榻が，縁台や長腰掛（床几）として受け入れられている。間の香狭間の加飾は，縁台には見られず，初期の直榻に類似し簡素化さ榻足と貫構造であり，四脚の転びに日本の縁台の特性が見られる。また，にみる一卓二凳の形式に近い用法は，平安時代や江戸時代の台と長腰掛に共通の用法として見られる。

具である凳（凳子）に類似した低い腰掛は，平安や鎌倉時代の絵巻に，りの猫脚形の腰掛が外庭で使用されている。

国の胡床（交杌）は，江戸時代では将几（牀几）と変容したが，現在中同じ胡床である。中国の案は供卓や八足案として，神事や仏具用として や形態に変容が少ないまま使用されている。

国の交椅や供案は，寺院の曲彖や圏椅そして供卓や供机として，様式は継がれたが，交椅は曲彖に，供案は前机や卓などに変容して受け入れら表記に違いが認められる。

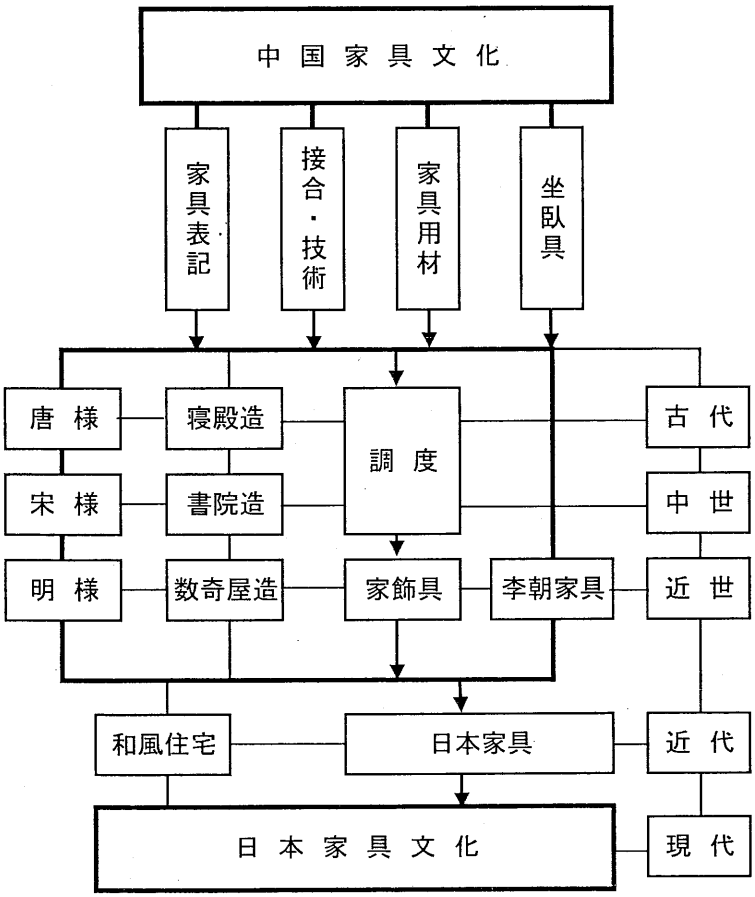
のように，中国古典様式家具の受容がみられる日本の調度と家具は，家化の発展的な方向とみられ，その生活様式が評価されている。

えば，エドワード・S・モース著にみられる室内での，多用途な畳（榻榻を使用した生活や，フランスの新造語 Tatamiser（タタミゼ）にみられ

本風の生活様式や室内装飾に関することなどである。これは，畳（榻榻を家具化して，中国古典家具を直接，間接的に受容し日本化したものが，の住様式と家具にみられるからである。それは，家具文化の１つの展開向性を示すものといえよう。

国家具文化受容過程から得られた知見を，日本の家具文化形成のために的に活かしていくことを期待し，本研究の結びとしたい。

結-1 に日本家具文化の受容と成立過程模式図を示す。



図結-１　日本家具文化の受容と成立過程模式図